

会 議 議 事 録 (抄)

会議名	専門学校東京テクニカルカレッジ 第二回 学校関係者評価委員会
開催日時	平成 26 年 1 月 23 日 (木) 18 時 00 分～20 時 00 分
会場	専門学校東京テクニカルカレッジ 地下 1 階 テラホール
参加者	外部委員 : 16 名 (20 名中) (委員の氏名・所属等は巻末別添資料参照) 学内関係者 : 10 名 (11 名中)
配布資料	① 式次第 ② 参加者委員名簿 ③ 前回議事録 ④ 「平成 24 年度専門学校東京テクニカルカレッジ自己評価報告書 (抜粋) 」 ⑤ 「学校関係者評価を踏まえた教育活動その他の学校運営の改善 (案) について」
会議録	<p>1. 開会の辞・配布資料確認 (事務局)</p> <p>2. 学園側関係者挨拶 学園側の関係者として、三上孝明 (専門学校東京テクニカルカレッジ 校長) が挨拶を行った。</p> <p>3. 委員のご紹介 (三上) 事務局より、配布資料②に基づいて委員のご紹介が行われた。</p> <p>4. 議長ほかの選出 事務局提案により、今回委員会の議長の選出をはかったところ、大塚雄二 委員が賛成多数により選出された。また、書記として小野寺洋子 委員が賛成多数により選出された。</p> <p>5. 議事 (1) 第一号議案：前回議事録の確認 議長は、事務局に対し、平成 25 年 11 月 19 日に開催された第 1 回学校関係者評価委員会の読み上げを指示し、その説明をさせた後、これを出席者にはかったところ、満場一位により齟齬がないことが確認された。 (2) 第二号議案：平成 24 年度自己評価報告書に基づく学校関係者評価について 議長は、事務局に対し、平成 24 年度における自己評価の報告を指示し、事務局はこれに応じて配布資料④に基づいて自己評価の内容について概説を行った。その後議長は、各委員に対し、上記説明に基づいて前回から追加の指摘事項や意見の有無を確認したところ、意見は出なかった。 引き続き、議長は事務局に対して学校側からの改善策の提示を求め、事務局はこれに応じて、主に基準 5 中の「課外活動に対する支援体制を整備しているか (5-19-4) 」について、資料⑤を用いて説明を行った。説明に際しては、各科の具体的な取り組みについては科長から、また、校の取り組み並びに「リアルお仕事プロジェクト (RJP) 」については校長から補足説明が行われた。 説明終了後、議長は委員に対し意見を求めたところ、「行政等から公的な支援を受けられないか調査した方が良い」、「取り組み成果を高校等へ積極的に展開し、進路選択に役立てて貰うべきだ」などの肯定的な意見が出された一方、「単に実施するだけではなく、実務の厳しさも学ばせるべきだ」などの意見を得ることができた。 最後に、議長は上記説明に基づいて、学校運営の改善案の内容の是非を出席者にはかったところ、満場一致で異議無しとの結論が得られた</p> <p>6. 次回日程について (議長) 平成 26 年 7 月 18 日 (金) 18 時 00 分～20 時 00 分</p> <p>7. 閉会の辞 (議長)</p>

以上

学校法人小山学園 専門学校東京テクニカルカレッジ
第2回 学校関係者評価委員会 参加者名簿

委員会名	区分	系・科/区分細目	主な関係科	役割	出欠	氏名	所属企業	役職	備考			
専門学校東京テクニカルカレッジ 学校関係者評価委員会	卒業生	建築・インテリア系	建築		○	安藤 拓也	株式会社三輪設計		建築科OB			
			情報		○	小原 松寿敏	富士通株式会社		情報処理科OB			
			Web		○	野 孝吉	株式会社イマカ		Webデザイナー科OB			
			Web	副委員長	×	佐藤 康智	株式会社ディー・エヌ・エー		自動車マーケティング科OB			
			ゲームPG		○	澤坂 智之	株式会社スケアクロウ		ゲームプログラミング科OB			
			ハイオ・環境系		○	立田 由里子	独立行政法人 理化学研究所		ハイオテクノロジー科OB			
			ハイオ・環境系		○	丸茂 源幸	株式会社ミナト設備企画設計		インテリア科保護者			
			ハイオ・環境系		○	多田野 富夫			情報処理科保護者			
			ハイオ・環境系		○	飯沼 まゆみ			ゲームプログラミング科保護者			
			ハイオ・環境系		×	寺田 展子			Webデザイナー科保護者			
			ハイオ・環境系		○	菅野 貢二			ハイオテクノロジー科保護者、 18時30分以降参加			
			同事務局	地域	中野区商工会議所	建築		○	樋口 修	株式会社ヒグチ設計		社長
						情報/Web		○	中山 典隆	東京商工会議所 中野支部		社長
						情報/Web		○	中山 典隆	株式会社イブシロン		社長
全科		○				岸 哲也	東京商工会議所 中野支部		会長			
建築		○				大塚 雄二	東中野五丁目小滝町会		所長			
ハイオ・環境系		×				霧野 隆	一般社団法人 建築家協会		会長			
ハイオ・環境系		○				杉山 司	株式会社レスト	ママハウス事業部部長		会長		
情報/Web		○				川戸 茂	一般社団法人 インテリアプランナー協会		社長			
情報		×				川戸 茂	恬硬ICTパートナーズ株式会社		社長			
ハイオ・環境系		○				佐々 義子	特定非営利活動法人 中野コンテンツネットワーク協会		社長			
ハイオ・環境系		○				小野寺 洋子	株式会社システム・ユー		専務理事、主席研究員			
ハイオ・環境系		○				三上 孝明	特定非営利活動法人くらしとバイオプラザ21		専務取締役			
ハイオ・環境系		○				高瀬 恵悟	株式会社 光英科学研究所		校長			
ハイオ・環境系		○				田中 健司			教務部長			
同事務局	事務局	全体	建築		○	今野 祐二		専務部長				
			建築		○	甲田 竜雄		建築科科長	同科カリキュラムリーダーも兼務			
			ハイオ・環境系		○	白井 雅哲		建築監督科科長	同科カリキュラムリーダーも兼務			
			ハイオ・環境系		○	鈴木 昇	学校法人小山学園		インテリア科科長	同科カリキュラムリーダーも兼務		
			ハイオ・環境系		○	井坂 昭司	専門学校東京テクニカルカレッジ		建築科夜間科科長	同科カリキュラムリーダーも兼務		
			ハイオ・環境系		○	宮川 進悟		情報処理科科長	同科カリキュラムリーダーも兼務			
			ハイオ・環境系		○	松田 達夫	webデザイナー科科長		webデザイナー科科長	同科カリキュラムリーダーも兼務		
			ハイオ・環境系		○	松田 達夫	ゲームプログラミング科科長		ゲームプログラミング科科長	同科カリキュラムリーダーも兼務		
			ハイオ・環境系		○	大江 宏明	ハイオテクノロジー科科長		ハイオテクノロジー科科長	同科カリキュラムリーダーも兼務		
			ハイオ・環境系		○	大江 宏明	環境テクノロジー科科長		環境テクノロジー科科長	同科カリキュラムリーダーも兼務		
			ハイオ・環境系		○	三上 孝明			校長			
			ハイオ・環境系		○	高瀬 恵悟			教務部長			
			ハイオ・環境系		○	田中 健司			専務部長			
			ハイオ・環境系		○	今野 祐二			建築科科長	同科カリキュラムリーダーも兼務		
ハイオ・環境系		○	甲田 竜雄			建築監督科科長	同科カリキュラムリーダーも兼務					
ハイオ・環境系		○	白井 雅哲			インテリア科科長	同科カリキュラムリーダーも兼務					
ハイオ・環境系		○	鈴木 昇			建築科夜間科科長	同科カリキュラムリーダーも兼務					
ハイオ・環境系		○	井坂 昭司			情報処理科科長	同科カリキュラムリーダーも兼務					
ハイオ・環境系		○	宮川 進悟			webデザイナー科科長	同科カリキュラムリーダーも兼務					
ハイオ・環境系		○	松田 達夫			ゲームプログラミング科科長	同科カリキュラムリーダーも兼務					
ハイオ・環境系		○	松田 達夫			ハイオテクノロジー科科長	同科カリキュラムリーダーも兼務					
ハイオ・環境系		○	大江 宏明			環境テクノロジー科科長	同科カリキュラムリーダーも兼務					

平成 25 年度 第 2 回 学校関係者評価 結果

(学校関係者評価委員会実施日:平成 26 年 1 月 23 日)



学校法人 小山学園
専門学校東京テクニカルカレッジ

1. 結果

本校では、平成 26 年 1 月 23 日に「平成 25 年度 第 2 回目学校関係者評価委員会」を開催致しましたので、以下に結果をまとめます。

(1) 概要

本会議では、前回（平成 25 年 11 月 19 日）の学校関係者評価委員会で委員の方々からご意見を頂戴した事項について、別添の「学校関係者評価を踏まえた教育活動その他の学校運営の改善（案）」をお示しし、これに基づいてその取り組み方針の是非について再度ご意見を頂戴した。

その中で、今回の委員会では、前回の委員会からあまり時間が経過していないことから、今回は特に重要度が高いと考えた基準 5 中の「課外活動に対する支援体制を整備しているか（5-19-4）」にテーマを絞り、現状での取り組みを各学科より報告させて頂いた。

(2) 結果

大項目		
基準 1 教育理念・目的・ 育成人材像	平成 24 年度自己評価	3.8/4.0
	第 1 回学校関係者評価	教育理念や目的、育成人材像の重要性に関しては、教職員に十分に浸透しており、その実践においてもおおむね満足できる取り組みがなされている。また、各学科の教育目標、育成人材像を正しく方向付けるための一連のプロセスにおいても適切に構築されている。一方、環境の変化に対応するための将来構想に関しては、今後も社会等の動きを見極めて柔軟に対応する必要がある。
	上記指摘を踏まえた 学校の対応	上記で指摘された将来構想に関しては、科を超えた全校的な取り組みであるため、校全体で長期的に取り組んでいく。
	第 2 回学校関係者評価	上記取り組みで問題は無い。
基準 2 学校運営	平成 24 年度自己評価	3.4/4.0
	第 1 回学校関係者評価	学校運営方針や事業計画については明確に定められており、設置法人や学校そのものの運営に関しても寄付行為や規定類により適切に運営されている。一方、専門学校教育を取り巻く環境は日々変化しており、柔軟かつ迅速に対応できる体制を整える必要がある。
	上記指摘を踏まえた 学校の対応	上記で指摘された環境の変化に柔軟かつ迅速に対応できる体制構築については、科を超えた全校的な取り組みであるため、校全体で長期的に取り組んでいく。
	第 2 回学校関係者評価	上記取り組みで問題は無い。
基準 3 教育活動	平成 24 年度自己評価	3.8/4.0
	第 1 回学校関係者評価	教育目標の設定や成績評価の仕組み、教員組織等はおおむね満足できる水準に達している。特に教育方法や評価に関してはかなり力を入れて取り組んで、自己評価報告書の「第 II 章 2.本校における教育質保証システム」であげられたコマシラバスや授業シートのような数々の取り組みも独自の取り組みとして評価できる。今後の課題としては、変化の激しい今後の教育において優れた資質を有する教員を確保することや、資格や免許の取得支援等に関して更なる努力が必要である。
	上記指摘を踏まえた 学校の対応	上記で指摘を受けた教員の資質の確保に関しては、現在実施している集合研修を継続すると共に、企業からご支援頂く形での個々の教職員の能力開発についても、次年度以降より充実させていく（企業様にご協力頂く教員研修については、今後各系の教育課程編成委員会で議題とさせて頂く）。
	第 2 回学校関係者評価	上記取り組みで問題は無い。

基準 4 学修成果	平成 24 年度自己評価	3.0/4.0
	第1回学校関係者評価	就職率の向上プロセスについてはおおむね満足できる水準に達している。一方で、資格・免許取得率の向上に関しては、最低目標の達成に終始することなく、総合的な支援策を講じる必要がある。また、卒業生の動向調査については十分に実施されているとはいえないため、今後は組織として体制を整えていく必要がある。
	上記指摘を踏まえた学校の対応	上記で指摘を受けた卒業生との連携強化に関しては、同窓会活動の活性化等により卒業生とのパイプの強化をすすめているが、成果が出るまでには時間が掛かると考えられるため、現段階では長期的な課題として捉えている。
	第2回学校関係者評価	上記取り組みで問題は無い。
基準 5 学生支援	平成 24 年度自己評価	3.3/4.0
	第1回学校関係者評価	就職支援や保護者との連携についてはおおむね満足できる水準に達している。一方で、毎年僅かながら退学者が発生しており、人間性を含む対応力強化、解決策の共有などについて、なお一層低減に努力する必要がある。
	上記指摘を踏まえた学校の対応	<p>上記で指摘を受けた学生支援の強化策に関しては、現場対応力やコミュニケーション能力の醸成等をはかるべく、各科において「仕事場カリキュラム」を充実させていくこととした。具体的には、各科の取り組みとしては、今年度より以下の事項に取り組んでいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 情報処理科：地域連携強化や IT 関連セミナーへの参加支援 ・ ゲームプログラミング科：地域連携強化やゲームセミナーへの参加支援 ・ Web デザイナー科：さらなる地域連携強化や Web デザインセミナーへの参加支援 ・ 建築科：地域建物見学等やアーキカフェ（放課後の講演会）の内容充実 ・ インテリア科：インターンシップ・校外学習の継続、企業・地域および学内他科との連携強化 ・ バイオテクノロジー科：地域連携強化や各種セミナーへの参加 ・ 環境テクノロジー科：地域連携強化や各種環境セミナー、環境啓発活動への参加
	第2回学校関係者評価	上記取り組みで問題は無い。素晴らしい取り組みであり、是非、実施して頂きたい。ただし、単に仕事のまねごとをやれば良いというのではなく、仕事の厳しさも体感できるプログラムが望まれる。
基準 6 教育環境	平成 24 年度自己評価	3.7/4.0
	第1回学校関係者評価	施設・設備・教育用具等は、おおむね満足できる水準に達している。また、学外実習・インターンシップ・海外研修等への取り組みに関しても、おおむね満足できる水準に達している。一方、防災面に関しては、施設面での問題は無いが、緊急時の連絡体制などにおいては、先進的とされる学内の情報システムをより有効に活用することを検討すべきである。
	上記指摘を踏まえた学校の対応	上記で指摘を受けた緊急時の連絡体制に関しては、基準 2「学校運営」中の IT を用いた学生向けの情報提供サービスとも関連づけて、中期的な課題として対応していく。
	第2回学校関係者評価	上記取り組みで問題は無い。
基準 7 学生の募集と受入れ	平成 24 年度自己評価	3.5/4.0
	第1回学校関係者評価	<p>学生募集活動に関しては、コンプライアンス上は適切な運営が行なわれている。</p> <p>一方で、入学定員は充足できていないことから、上記に掲げた優れた教育活動やその成果などの情報発信提供方法を改善していく必要がある。</p>
	上記指摘を踏まえた学校の対応	上記で指摘を受けた教育内容の情報発信については、次年度以降、高等学校の教員に対する説明会を増やすなどの取り組みをとっていく。
	第2回学校関係者評価	上記取り組みで問題は無い。

基準 8 財務	平成 24 年度自己評価	3.6/4.0
	第 1 回学校関係者評価	財務に関しては、財務基盤、予算収支計画、監査の各項目に関して問題ない。なお、財務情報の公開に関しては、第 2 回学校関係者評価委員会までに実現することを確認した。
	上記指摘を踏まえた学校の対応	上記で約束した財務情報の公開については、12 月 5 日に Web サイト上で公開した。
	第 2 回学校関係者評価	上記取り組みで問題は無い。
基準 9 法令等の遵守	平成 24 年度自己評価	3.1/4.0
	第 1 回学校関係者評価	法令等の遵守に関しては、法令遵守、個人情報保護、学校評価の各項目に関して問題ない。教育情報の公開に関しては、第 2 回学校関係者評価委員会までに実現することを確認した。
	上記指摘を踏まえた学校の対応	上記で約束した「自己評価報告書」の公開については、12 月 5 日に Web サイト上で公開した。
	第 2 回学校関係者評価	上記取り組みで問題は無い。
基準 10 社会貢献・地域貢献	平成 24 年度自己評価	3.5/4.0
	第 1 回学校関係者評価	学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献については、パソコンスクール等の市民講座や地元中学生や修学旅行生に対する体験授業等の実施など積極的に実施している。また、学生のボランティア活動に関しても、時間的な制約があるものの、地元商店街のイベント等に積極的に参加するなど、一定の取り組みを行っている」と評価できる。
	上記指摘を踏まえた学校の対応	上記にあるように、前回においても一定以上の取り組みを実施していると評価されたが、次年度以降は基準 5 であげた「仕事場カリキュラム」の取り組みと合わせて、更に充実させていきたいと考えている。
	第 2 回学校関係者評価	上記取り組みで問題は無い。

以上